



インベントリの管理

このセクションでは、次の点について説明します。

- [インベントリの管理](#) (1 ページ)
- [インベントリ詳細の表示](#) (1 ページ)
- [デバイス固有のインベントリ詳細](#) (24 ページ)
- [インベントリ詳細の更新と収集](#) (40 ページ)
- [管理対象デバイスの一時停止と再開](#) (45 ページ)
- [デバイスの削除](#) (46 ページ)
- [パフォーマンス グラフ](#) (48 ページ)
- [Unified CM デバイスの検索](#) (55 ページ)
- [SNMP クエリ \(SNMP Query\)](#) (57 ページ)

インベントリの管理

この章では、インベントリの管理について説明します。

インベントリ詳細の表示

Cisco Prime Collaboration Assurance は、リアルタイムによる検出を継続して行います。ネットワークに関する最新情報を取得するには、定期的にインベントリを更新する必要があります。インベントリをどの程度の頻度で更新するかをスケジュールできます。

インベントリを更新すると、インベントリは Cisco Prime Collaboration Assurance データベースと同期されます。Cisco Prime Collaboration Assurance は、更新後にネットワークで発生したすべての追加、削除、変更を反映させます。

Cisco Prime Collaboration Assurance では、デバイスはデバイス タイプに基づきグループ化されます。[デバイス グループ (Device Group)] ペインは、[インベントリ管理 (Inventory Management)]、会議の診断 (Session Conference Diagnostic)] (フィルタとして)、[エンドポイントの診断 (Endpoint Diagnostics)]、[アラームとイベント (Alarms and Events)] ページで

使用できます。対象のグループからデバイスまたはエンドポイントを選択し、インベントリの詳細を確認を監視できます。



- (注) Cisco Prime Collaboration Assurance で TC/CE デバイス タイプとして検出された Cisco Telepresence エンドポイントは、JTAPI ユーザーが制御するデバイスリストには含めないようにします。IP フォンは、JTAPI ユーザの制御リストで保持することを推奨します。

インベントリ テーブルのデバイス ホスト 名列にマウスを乗せて [デバイス 360° (Device 360°)] ビューをクリックすると、アラーム、インターフェイス、ポート、環境、モジュール、デバイス固有のその他の機能など、デバイスの詳細を確認できます。詳細については、[デバイスの 360° ビュー](#)を参照してください。インベントリ テーブルには、Unified Communications Manager に登録され、管理対象であるデバイスのソフトウェアバージョンも表示されます。デバイスには、ソフトフォン、ハードフォン、Jabber があります。

およびインベントリ管理ページには、インベントリ テーブルの他にも、この下には、システム情報、アクセス情報、インターフェイス情報、イベント設定ペインが表示されます。すべてのペインは、最後にポーリングされたデータに基づき設定されます。これらのデバイスの詳細を表示するには、少なくとも 1 回は [Managed] 状態となっている必要があります。

インベントリ ペイン

現在のインベントリ テーブルは、[インベントリ (Inventory)] ページで利用できます。

Cisco Prime Collaboration Assurance により管理される各デバイスは、デバイス (インターフェイスおよび周辺機器) の物理インベントリを表示できるようになっています。デバイスのインベントリ詳細を表示するには、[Current Inventory] ペインの行をクリックします。

複数のデバイス (最初の 500 個の項目) を選択するには、[Current Inventory] ペインの左上隅にあるチェックボックスを使用します。

Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードで展開した場合、デバイスを選択してデバイスを割り当ててから、[編集 (Edit)] > [割り当て (Assign)] をクリックして顧客を割り当てることができます。[デバイスの編集 (Edit Device)] ダイアログボックスが表示されたら、ドロップダウンリストから顧客名を選択できます。[デバイス グループ (Device Group)] ペインから、[ホスト名 (Recycle Host)] を選択した後 (これによりクラスタのすべてのデバイスが選択される)、[編集 (Edit)] > [割り当て (Assign)] をクリックすることにより、クラスタに顧客を割り当てることができます。同様に、顧客の割り当てを解除するには、デバイスを選択してから、[編集 (Edit)] > [割り当て解除 (Unassign)] をクリックします。

[クレデンシャルの変更 (Modify Credentials)] オプションを使用して、クレデンシャルと再検出デバイスを変更できます。確認メッセージウィンドウで [ジョブの進行状況 (Job Progress)] をクリックすると、[ジョブ管理 (Job Management)] ページを相互起動して、検出ジョブの詳細を確認できます。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合

[しきい値設定 (Threshold Settings)] オプションを使用して、自動トラブルシューティングの有効化、無効化、または設定を切り替えることができます。

[一時停止 (Suspend)] オプションや [再開 (Resume)] オプションを使用して、デバイスの管理の一時停止や再開ができます。インベントリは、[Suspended] 状態のデバイスについては更新されません。

インベントリ テーブルの [Show] ドロップダウンリストを使用して、デバイス タイプと状態に基づいてデバイスをフィルタリングできます。たとえば、ネットワーク内の、すべての削除されたデバイスを再検出する場合は、表示ドロップダウンリストから [Deleted] を選択します。インベントリ テーブルに、すべての削除されたデバイスの一覧が表示されます。これらのデバイスを検出するために再検出を実行します。

たとえば、ネットワーク内の、すべての削除されたデバイスを再検出する場合は、表示ドロップダウンリストから [Deleted] を選択します。インベントリ テーブルに、すべての削除されたデバイスの一覧が表示されます。これらのデバイスを検出するために再検出を実行します。

クイックフィルタや拡張フィルタなどのオプションがあり、デバイスの条件に基づいてデバイスをフィルタリングできます。

インベントリ テーブルの右上隅にある [Total] フィールドには、デバイス数が表示されます。グループ内のデバイス数を表示するには、グループを選択します。

たとえば、電話機エンドポイントの数を表示するには、[Device Group] で [Endpoints] グループを選択します。[Total] フィールドのエンドポイント数が更新されます。デバイス カウントの詳細については、現在のインベントリ テーブルのフィールド説明欄を参照してください。

不明なエンドポイントの一覧を表示するには、[デバイス グループ セレクタ (Device Group Selector)] > [定義済み (Predefined)] > [不明なエンドポイント (Unknown Endpoints)] の順に選択します。

Cisco Prime Collaboration リリース 12.1 以降の場合

[しきい値設定 (Threshold Settings)] オプションを使用して、自動トラブルシューティングの有効化、無効化、または設定を切り替えることができます。

[一時停止 (Suspend)] オプションや [再開 (Resume)] オプションを使用して、デバイスの管理の一時停止や再開ができます。インベントリは、[Suspended] 状態のデバイスについては更新されません。

インベントリ テーブルの [Show] ドロップダウンリストを使用して、デバイス タイプと状態に基づいてデバイスをフィルタリングできます。

クイックフィルタや拡張フィルタなどのオプションがあり、デバイスの条件に基づいてデバイスをフィルタリングできます。

インベントリ テーブルの右上隅にある [Total] フィールドには、デバイス数が表示されます。グループ内のデバイス数を表示するには、グループを選択します。

たとえば、電話機エンドポイントの数を表示するには、[Device Group] で [Endpoints] グループを選択します。[Total] フィールドのエンドポイント数が更新されます。デバイス カウントの詳細については、「現在のインベントリ テーブルのフィールド説明」テーブルを参照してください。

不明なエンドポイントの一覧を表示するには、[デバイス グループ セレクタ (Device Group Selector)] > [定義済み (Predefined)] > [不明なエンドポイント (Unknown Endpoints)] の順に選択します。

この表は、インベントリ テーブルのフィールドについて説明しています。デフォルトでは、インベントリ テーブルのすべての列は表示されません。すべての列を表示するには、右上の隅にある [Settings] オプションをクリックします。CSV または PDF ファイルとしてインベントリ テーブルをエクスポートするには、インベントリ テーブルの右上の隅にある [Export] アイコンをクリックします。

表 1: [Current Inventory] テーブルのフィールドの説明

フィールド	説明
エンドポイント名	識別を容易にするためにエンドポイントに割り当てられた名前。
内線番号	エンドポイントのディレクトリ番号です。この数は、デバイスの一意的な識別に役立ちます。
電話の説明	Cisco Unified Communications Manager (CUCM) または Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS) でデバイスの設定時に追加した、エンドポイントの特徴を表す説明です。
ホスト名	識別を簡単にするためにデバイスに割り当てられる名前。
モデル	Catalyst3506G48PS などのデバイス モデル。

フィールド	説明
IP Address	<p>デバイスを管理するために使用される IP アドレス。</p> <p>IP アドレスをクリックすると、そのデバイスにログインできます。</p> <p>この機能は、MSPモードでは使用できません。</p> <p>クイックビューアイコンをクリックして、そのデバイスの デバイス 360 度ビューを起動します。</p> <p>そのデバイスがエンドポイントの場合、エンドポイントの 360 度ビューが表示されます。</p> <p>これらのデバイスが論理検出で検出された場合、IP アドレスとプライベート IP アドレスは同じになります。</p> <p>ルータとスイッチの場合、デバイスにログインするには、Puttyなどのターミナルクライアントアプリケーションを関連付ける必要があります。</p>
Mac アドレス	<p>デバイスの MAC アドレスです。</p>
[ソフトウェア タイプ (Software Type)]	<p>デバイスで実行している IOS や CentOS などのソフトウェアです。</p>
ソフトウェア バージョン	<p>デバイスで実行しているソフトウェアのバージョンです。</p> <p>(注) デバイスが Unified Communications Manager に登録されていない場合、[ソフトウェアバージョン (Software Version)]フィールドにはNA」と表示されます。</p>
デバイス プール	<p>CUCM に登録されているデバイスのみを使用します。</p>
パーティション	<p>CUCM に登録されているエンドポイントのみを使用します。</p>
シリアル番号	<p>エンドポイントのみに適用されます。</p>
状態	<p>デバイスのステータスです。</p>
ステータス理由	<p>デバイスのステータス理由です。</p>

フィールド	説明
タイプ	デバイスの最適なロールまたはサービスです。
機能	デバイスの他のすべてのロールまたはサービスです。
最終検出日	デバイスが最後に検出された日時です。時刻は、Cisco Prime Collaboration Assurance サーバで設定されているタイムゾーンに従います。
<p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合 カスタマイズされたイベント</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 緑のチェックマークが表示—[イベントのカスタマイズ (Customize Events)] タブを使用して、デバイスのイベント設定がカスタマイズされています。 • 緑のチェックマークが非表示—そのデバイスのイベント設定はカスタマイズされていません。このデバイスはグローバル設定を使用します。
<p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合 Mediatrace Role</p>	<ul style="list-style-type: none"> • [Unsupported] : デバイスは Cisco Mediatrace をサポートしません。 • [Transparent] : デバイスは Cisco Mediatrace をサポートしますが、プロファイルが設定されていません。 • [Responder] : Cisco Mediatrace の応答側プロファイルがデバイスでイネーブルにされています。Cisco Mediatrace の情報を監視および収集する場合は、このプロファイルを有効にします。 • [Responder] : Cisco Mediatrace の発信側プロファイルがデバイス上でイネーブルにされています。Cisco Mediatrace セッションまたはポーリングを開始する場合は、このプロファイルを有効にします。 • [Initiator/Responder] : Cisco Mediatrace の発信側および応答側プロファイルがデバイスでイネーブルにされています。

フィールド	説明
<p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前 の場合</p> <p>IP SLA Role</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 非対応—デバイスはビデオ IP SLA をサポートしていません。 • 未設定—デバイスはビデオ IP SLA をサポートしますが、設定されていません。 • [Responder] : デバイス上で IP SLA レスポンダのプロファイルが設定されています。このプロファイルで設定されているデバイスは、測定パケットを処理し、タイムスタンプの詳細情報を提供します。 レスポンダは、接続先デバイスの処理遅延に関する情報を、送信元の Cisco ルータに返すことができます。
<p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前 の場合</p> <p>Performance Monitor</p>	<ul style="list-style-type: none"> • [Unsupported] : デバイスは Cisco Performance Monitor をサポートしません。 • 未設定—デバイスは Cisco Performance Monitor をサポートしますが、設定されていません。 • [Configured] : Cisco Performance Monitor がイネーブルになっているため、ネットワーク内のパケットフローをモニタし、そのフローに影響をおよぼす可能性がある問題点を認識できます。



- (注)
- インベントリの不明な電話機を更新するには、Cluster Data Discovery をトリガーします。これは、午前 0 時に自動的にトリガーされます。
 - IP アドレスを変更または交換した場合、デバイス タイプは識別されません。このような場合は、
 - `/opt/emms/emsam/conf/` フォルダに移動し、`emsam.properties` ファイルを編集します。
 - `com.cisco.nm.emms.devicetype.rediscovery = false` 行を見つけて、値を 'False' から 'True' に変更します。
 - 管理者ユーザとしてログインして Cisco Prime Collaboration Assurance Server を再起動し、
 - **application stop cpcm**
 - **application start cpcm**
 - デバイスの再発見というコマンドを実行します。

Mobile Remote Access (MRA) クライアント (Cisco Jabber、Cisco TelePresence MX シリーズ、Cisco TelePresence System シリーズ、Cisco TelePresence SX シリーズなど) の IP アドレスは Cisco Unified Communications Manager の Cisco Expressway-Core デバイスと同じですが、Cisco Prime Collaboration Assurance で IP アドレスは「NA」と表示されます。



(注) デバイス 360° ビューは MRA クライアントで使用できます。

関連トピック

[会議の診断ダッシュボード](#)

[デバイス グループの管理](#)

[Unified CM クラスタ データの検出](#)

デバイスの 360° ビュー

360° ビューを使用して、任意のデバイスに関する簡単な概要情報を取得できます。デバイスの IP アドレスの上にマウスを合わせ、クイック ビュー アイコンをクリックして、[デバイス 360° ビュー (Device 360° View)] ウィンドウを起動します。デバイスのグローバル検索を実行して、[デバイス 360° ビュー (Device 360° View)] を確認することもできます。

ステータスや場所などのデバイス情報の表示に加えて、デバイス上のモジュール、アラーム、インターフェースの表示や、そのデバイスに対する ping や traceroute などのツールの起動もできます。

デバイスがクラスタに属している場合、クラスタ ID 値をクリックすると、デバイスが属しているクラスタのクラスタ ビューを相互起動できます。



(注) Internet Explorer 10 および 11 を使用している場合は、[デバイス 360° ビュー (Device 360° View)] ウィンドウを表示するために推奨されるブラウザ設定を使用していることを確認してください。ブラウザで F12 キーを押して、次のように設定します。

- Internet Explorer 10 の場合：
 - **IE10 ブラウザ モード** : IE10 または IE10 互換表示
 - **ドキュメント モード** : 標準 (デフォルト) または互換
- Internet Explorer 11 の場合：
 - **ブラウザ プロファイル** : デスクトップ
 - **ドキュメント モード** : Edge (デフォルト)

ブラウザを再度起動して、[デバイス 360° ビュー (Device 360° View)] ウィンドウを表示します。

[デバイス360°ビュー (Device 360° View)] ウィンドウには、次のデバイスの詳細が表示されます。

表 2: フィールド/ボタンとその説明

フィールド	説明
状態	デバイスの状態を確認するには、状態アイコンにマウスのカーソルを合わせます。アイコンの各色は、さまざまな状態を表しています。
ステータス理由	デバイスのステータス理由と、すべての機能を動作させるために実行する必要がある追加のアクティビティを確認するには、アイコンの上にマウスのカーソルを合わせます。アイコンの各色は、デバイスの状態に対応しています。
ホスト名	—
ホスト IP / グローバル IP アドレス	IP アドレスをクリックすると、[デバイス管理 (Device Management)] ページが起動します。ルータとスイッチにログインするには、その IP アドレスをクリックして、TELNET や SSH などの端末クライアントアプリケーションを関連付ける必要があります。 この機能は、MSP モードでは使用できません。
MAC アドレス	デバイスの MAC アドレス。
タイプ	デバイス タイプまたはデバイスのプライマリロールまたは機能は、hostname 行の下に右隅に明記されます。たとえば、Finesse、Unified CM または Unity Connection などです。
ホスト名 (Host Name)	NAT 環境で Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードで展開した場合は、デバイスのホスト名が表示されます。
顧客	Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードで展開した場合、デバイスが属している顧客を参照することができます。
バージョン	デバイスのソフトウェアバージョン。
最終検出	最後に成功した検出のタイムスタンプです。

フィールド	説明
クラスタ ID	デバイスが属しているクラスタのクラスタ ID です。クラスタ ID をクリックすると、[クラスタの詳細 (Cluster Details)] ページが開きます。
—	<p>サポートコミュニティアイコンをクリックすると、デバイスに関連する投稿およびディスカッションがフィルタ処理されたシスコサポートコミュニティダイアログボックスが開きます。そのデバイスに関する質問を投稿できます。</p> <p>他のデバイスのサポートページに移動したり、Cisco Prime Collaboration Assurance のサポートコミュニティ ページにアクセスできます。Cisco Prime Collaboration Assurance ページにアクセスするには、[シスコサポート コミュニティにアクセス (Visit the Cisco Support Community)] をクリックし、[コミュニティトピックと投稿に移動 (Navigate to a Community Topic and Post)] ペインをクリックしてから、[コラボレーション、音声およびビデオ (Collaboration, Voice and Video)] をクリックします。[コラボレーション、音声およびビデオ コミュニティ (Collaboration, Voice and Video Communities)] テーブルで、[Prime Collaboration Management] をクリックします。</p> <p>Cisco Prime Collaboration コミュニティ フォーラムでは質問を投稿できるほか、既存のディスカッション、動画、関連ドキュメントで問題に関連する質問や情報を検索できます。</p> <p>ビジネスに影響を及ぼす技術的な問題については、タイムリーなサポートを受けられるよう、Cisco TAC でサービス リクエストを開始することをお勧めします。</p>
—	[ping] アイコンをクリックしてデバイスに ping すると、送受信されたパケットの数、パケット損失 (%)、および ping でデバイスに到達するまでの所要時間 (ミリ秒) など、ping の統計情報を取得できます。

フィールド	説明
—	[traceroute] アイコンをクリックして、デバイスに到達するためのルート、デバイスに到達するまでのホップ数、および各ホップの経過時間（ミリ秒）を確認します。
—	[タスク (tasks)] アイコンをクリックし、ドロップダウンリストから選択して、パフォーマンス グラフの起動やしきい値の管理などの複数のタスクを実行します。 (注) 使用可能なオプションは、選択したデバイスによって異なります。

その他のデバイス固有の情報は、次のとおりです。

表 3: デバイス 360° ビュー (Device 360° View) : タブの説明

タブ	説明
アラーム	ここでは、次の項目について説明します。 <ul style="list-style-type: none"> • 重大度 : アラームの重大度 • ステータス : アラームのステータス • 名前 : デバイスの名前 • コンポーネント : アラームがあるコンポーネントの名前 • 最終更新日 : 最後のアラーム生成のタイムスタンプ

タブ	説明
インターフェイス	<p>インターフェイス、音声インターフェイス、ポートに関する詳細情報が含まれます（デバイスに該当する場合）。カードが特定のポートで再生されていることと、カードの機能を指定します。インターフェイス、音声インターフェイス、およびポートでは、次の情報を利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オペレーションのステータス（Oper Status）：デバイスの動作状態 • 管理ステータス（Admin Status）：インターフェイスの管理ステータス • 名前：デバイスの説明 • アドレス：デバイスの物理アドレス • Type：デバイス タイプ
カード/サービス	<p>ここでは、次の項目について説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 名前：音声またはサービスの説明 • バージョン：カードまたはサービスのバージョン • ステータス：カードまたはサービスのステータス
ポート	—
環境	<p>内容は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電源モジュール • ファン • 温度センサー • 電圧センサー
デバイス固有の詳細	—

デバイスの [エンドポイント360°ビュー（Endpoint 360° View）] の [接続の詳細（Connectivity Details）] タブの下の Cisco TelePresence TX の Differentiated Services Code Point（DSCP; DiffServ コードポイント）値（10 進形式とその意味の両方）を表示できます。

を選択します。[インベントリ管理 (Inventory Management)] [IPアドレス (IP Address)] 列をクリックして、[エンドポイント360°ビュー (Endpoint 360° View)] を起動します。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

選択 [インベントリ (Inventory)] > [インベントリ管理 (Inventory Management)] [IPアドレス (IP Address)] 列をクリックして、[エンドポイント360°ビュー (Endpoint 360° View)] を起動します。

Differentiated Services Code Point (DSCP; DiffServ コードポイント) 値の詳細については、[RFC 2474](#) を参照してください。



(注) 表示されるフィールドは、選択したデバイスによって異なります。

上部にある [詳細情報 (View More)] ボタンをクリックして、次の操作を行います。

- [デバイス360°ビュー (Device 360°View)] ポップアップをウィンドウサイズで表示する。
- Cisco Unified Communication のアプリケーションまたは固有のカウンタを選択することによって、パフォーマンスダッシュボードを作成できます。詳細については、「[カスタムパフォーマンスダッシュボードの作成]」を参照してください。

メトリック グラフ

音声デバイス (電話を除く) と CTS のメトリック グラフを表示できます。これらのグラフは、少なくとも1つのポーリングサイクルが終了している、管理状態のデバイスのみに表示されます。



(注) デバイスが管理状態になった後、グラフが表示されるまで時間がかかります。これは、グラフのデータを取得するにはポーリングを完了する必要があるためです。

これらのグラフには、CPU、メモリ、ハードディスク使用率などの値が表示されます。最後の1時間の最大値、最小値、および現在値 (% またはバイト数 (MB)) を表示できます。メトリック グラフの各棒は4分間を表します。棒は15本あり、各棒は4分の値を表しています。茶色の図は最小値を表し、青色の図は過去1時間の最大値を表します。

[詳細を表示 (See More)] をクリックすると、一部のデバイスのパフォーマンス グラフが起動します。

マルチポイント コントローラ (MCU) の場合、パフォーマンス グラフで、音声ポートとビデオポートの使用率の絶対値とパーセンテージが表示されます。これらのオプションはグラフの右上あたりで選択できます。

TP サーバでは、パフォーマンス グラフを利用できます。絶対値とパーセンテージを確認できます。



(注) メトリック グラフとパフォーマンス グラフが利用できるかどうかは、選択したデバイスによります。

Cisco Prime Collaboration Assurance のグローバル検索オプション

Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 および 12.1 の場合

次の表では、Cisco Prime Collaboration Assurance のグローバル検索オプションについて説明します。

表 4: Cisco Prime Collaboration Assurance のグローバル検索オプション

検索	変数	ストリングのフォーマット例	例外および使用できる検索文字列
エンドポイント	DN	10002 1000* 100* 1* *0002	英数字、ダッシュ、ピリオド、アンダースコアを使用します。
	IP	10.64.101.162 10.64.101.* * 10.78.22.77 . 10.78.22.* 10.78.*.* 10.*.*.* *	英数字、ダッシュ、ピリオド、アンダースコアを使用します。特殊文字 % は結果を取得しません。 アンパサンド (&) とスペースは使用できません。
	MAC	00260bd75cf8 00260bd75cf* 00260bd* 0* 00*	ダッシュ、ピリオド、アンダースコアは使用できません。英数字と空白スペースは使用できます。 (注) グローバル検索オプションで MAC アドレスを使用して電話機を検索する場合、コロン、ハイフン、ドットは使用しないでください。
	エンドポイント名	San Jose	-

検索	変数	ストリングのフォー マット例	例外および使用できる 検索文字列
デバイス	IP	10.78.22.129 10.78.22.* 10.*	英数字、ダッシュ、ピリオド、アンダースコア、スペースを使用します。
	DNS	cussmtest-15.cisco.com	ドメイン名が解決可能でない場合は、IPアドレスが検索結果に表示されます。
ユーザ	名 または 姓 または ユーザ名	HS John	英数字、ダッシュ、アンダースコア、空白スペースは使用できません。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 および 12.1 の場合

検索結果

検索パラメータ	検索結果
エンドポイント	<p>エンドポイント名、ディレクトリ番号、IP アドレス、IPv6 アドレス、MAC アドレス、モデル、クラスタ名、ソフトウェアバージョン、登録ステータス、ステータス理由が表示されます。エンドポイント検索を実行すると、すべての電話機と Cisco TelePresence エンドポイントが検索されます。</p> <p>IP アドレスの横にあるアイコンをクリックすると、エンドポイントの [エンドポイント 360 ビュー (Endpoint 360 View)] が起動します。</p>
デバイス	<p>名前、IP アドレス、ステータス、デバイスタイプが表示されます。デバイス検索を実行すると、すべての電話機と Cisco TelePresence エンドポイントが検索されます。</p> <p>デバイス名の横にあるアイコンをクリックすると、デバイスの [エンドポイント 360 ビュー (Endpoint 360 View)] が起動します。</p> <p>(注) 表示される情報は、検索したデバイスによって異なります。</p>
ユーザ	<p>名、姓、ユーザ名が表示されます。デバイス名の横にあるアイコンをクリックすると、ユーザの [ユーザ 360° ビュー (User 360° View)] が起動します。</p>

Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードで導入した場合は、検索したデバイスが属する顧客を参照することもできます。デバイスが複数の顧客に属する場合は、そのデバイスが属するすべての顧客が表示されます。デバイスが顧客に関連付けられていない、またはすべての顧客に関連付けられている場合、そのデバイスはデフォルトの顧客ドメイン、つまりすべての顧客に含まれていますが、検索結果の顧客の詳細では空白が表示されます。顧客名をクリックすると、その顧客でフィルタリングしたホームページを起動できます。

ユースケースの検索

次のユースケースに基づき、検索を実行できます。

表 5: ユースケースの検索

検索 :	実行/使用
特定の顧客に属するすべてのデバイスです。	画面の右上にある [グローバル顧客の選択] ドロップダウンリストから顧客を選択して、次に [デバイスの検索 (Device Search)] を選択し、検索文字列を入力します*。
Cisco Jabber	エンドポイント検索
E20	エンドポイント検索
インフラストラクチャ デバイス	デバイスの検索
部分的な IP アドレスを持つデバイスの IP アドレスです。	デバイスの検索 : とえば、10 などの文字列で検索するとします。*
特定の顧客に関連付けられているすべてのユーザの一覧です。	画面の右上にある [グローバル顧客の選択] ドロップダウンリストから顧客を選択して、次に [ユーザの検索 (User Search)] を選択し、検索文字列を入力します*。

インベントリの概要

[インベントリの概要 (Inventory Summary)] には、デバイスの数がデバイスの状態に基づいて表示されます。[合計 (Total)] 列には、特定の状態にあるデバイスの合計数が表示されます。デバイス数からは、[インベントリ管理 (Inventory Management)] の [インベントリ (Inventory)] テーブルをクロス起動できます。デバイス数をクリックすると [インベントリ (Inventory)] テーブルが表示され、その特定の状態にあるすべてのデバイスを確認できます。

[インベントリの概要 (Assurance Inventory Summary)] は、ユーザ インターフェイス ブラウザ の下部にスライダとして用意されています。下へスクロールすると詳細を表示できます。[インベントリの概要 (Assurance Inventory Summary)] のデータは、30 秒ごとに更新されます。

表 6: [インベントリの概要 (Inventory Summary)]-フィールドの説明

フィールド	説明
不明なエンドポイント	不明なエンドポイントの合計数。この数をクリックすると、[エンドポイントの診断 (Endpoint Diagnostics)] ページで、不明なエンドポイントのフィルタ処理されたリストを開くことができます。
Partially Managed	管理対象状態にあるものの、一部のクレデンシヤルが不足しているデバイスの数。これらのクレデンシヤルは、インベントリの管理には必須ではありませんが、トラブルシューティングなど、他のあらゆる機能を正しく実行するために必要となります。対応する数をクリックすると、インベントリ テーブルをクロス起動して、管理対象でありながらクレデンシヤルが不足しているすべてのデバイスの一覧を確認できます。この数は、クレデンシヤルの追加後に再検出を実行した場合にのみ更新されます。



- (注) [合計数 (Total Count)] 列には、[インフラストラクチャデバイス (Infrastructure Devices)]、[エンドポイント (TelePresence Endpoints)] 列をデバイスの状態ごとに合計した値が含まれますが、[合計数 (Total Count)] 列のデバイス数には多少の不整合が生じることがあります。このような差異は、インベントリから不明な状態のデバイスタイプが計算に含まれた場合に発生します。

デバイスステータスの概要

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

[デバイスステータスの概要 (Device Status)] には、デバイスの数がデバイスの状態に基づいて表示されます。電話機や不明なデバイスはカウント数に含まれません。デバイスのカウントは、[インベントリ管理 (Inventory Management)] の [インベントリ (Inventory)] テーブルに対するクロス起動として使用できます。デバイス数をクリックすると [インベントリ (Inventory)] テーブルが表示され、その特定の状態にあるすべてのデバイスを確認できます。カウントは、顧客/Assurance ドメインに基づいて絞り込むことができます。

[デバイスステータスの概要 (Device Status Summary)] は以下で使用できます。[インベントリ (Inventory)] > [デバイスステータスの概要 (Device Status Summary)]。[デバイス (Devices)] 列には、特定の状態にあるデバイスの合計数が表示されます。[ステータス (Status)] 列には、デバイスのステータスが表示されます。[ディスカバリ ジョブ (Discovery)]

Jobs] をクリックすると **[ジョブの管理 (Job Management)]** ページに移動し、ディスカバリジョブのステータスが表示されます。

次のデバイス ステータスが表示されます。ステータスの詳細については、『Cisco Prime Collaboration Assurance ガイド-Advanced』の「**「ディスカバリ ライフ サイクル」**」セクションを参照してください。

- 管理対象 (Managed)
- Partially Managed
- Inaccessible
- Unreachable
- Suspended
- Unsupported
- Undiscoverable

[Partially Managed]、[Inaccessible]、[Undiscoverable] 状態にマウスを合わせると、説明を含むツールチップを表示できます。

[インベントリの概要 (Inventory Summary)] の横にあるグローバルサマリーバーには、[Unmanaged] デバイスの数が表示されます。数をクリックすると、**[デバイス ステータスの概要 (Device Status Summary)]** ページに移動します。

表 7: デバイス ステータスの概要 - フィールドの説明

フィールド	説明
デバイスの検出ステータス	デバイスの検出ステータスを表示します。
進行中のデバイス検出 <カウント>	検出が実行されているデバイス数を表示します。検出が行われていない場合、進行中のデバイス検出 <カウント> は表示されません。

Cisco Prime Collaboration リリース 12.1 以降の場合

[デバイス ステータスの概要 (Device Status)] には、デバイスの数がデバイスの状態に基づいて表示されます。この表で示されたとおり、デバイスにはインフラストラクチャコンポーネントやビデオ/TelePresence のエンドポイントが含まれています。電話機はカウントされません (DX シリーズを含みます)。数をクリックすると、**[インベントリ管理 (Inventory Management)]** ページのインベントリ テーブルに移動し、特定の状態にあるすべてのデバイスが表示されます。カウントは、顧客/Assurance ドメインに基づいて絞り込むことができます。

[デバイス ステータスの概要 (Device Status Summary)] を利用するには、**[インベントリ (Inventory)]** > **[デバイス ステータスの概要 (Device Status Summary)]** の順に選択します。**[デバイス (Devices)]** 列には、特定の状態にあるデバイスの合計数が表示されます。**[ステータス (Status)]** 列には、デバイスのステータスが表示されます。

[**ディスカバリ ジョブ (Discovery Jobs)**] をクリックすると [**ジョブの管理 (Job Management)**] ページに移動し、ディスカバリ ジョブのステータスが表示されます。

次のデバイス ステータスが表示されます。ステータスの詳細については、『Cisco Prime Collaboration Assurance ガイド- Advanced』の「ディスカバリ ライフ サイクル」セクションを参照してください。

デバイス ステータスの概要データは、[Managed] と [Unmanaged] の2つのカテゴリに分類されます。

- [Managed] カテゴリは、次のとおりです。
 - Discovered Successfully
 - Partially Managed
- [Unmanaged] カテゴリは、次のとおりです。
 - Inaccessible
 - Unreachable
 - Suspended
 - Unsupported
 - Undiscoverable
 - Unknown

[Partially Managed]、[Inaccessible]、[Unreachable]、[Undiscoverable] 状態にマウスを合わせると、説明を含むツールチップを表示できます。

両方のカテゴリ ([Managed] と [Unmanaged]) の数は、それぞれのカテゴリの合計デバイス数と一致する必要があります。

[**インベントリの概要 (Inventory Summary)**] の横にあるグローバル サマリー バーには、[Unmanaged] デバイスの数が表示されます。この数は、[**デバイスステータス (Device Status)**] テーブル内の [Unmanaged] デバイスの数と一致する必要があります。数をクリックすると、[**デバイスステータスの概要 (Device Status Summary)**] ページに移動します。

表 8: デバイスステータスの概要 - フィールドの説明

フィールド	説明
デバイスの検出ステータス	デバイスの検出ステータスを表示します。
進行中のデバイス検出 <カウント>	検出が実行されているデバイス数を表示します。検出が行われていない場合、進行中のデバイス検出 <カウント> は表示されません。

トラブルシューティング

問題 : CUCM の再検出により Cisco Prime Collaboration Assurance インベントリから Pub が消滅します。これは、CUCM 上で共存する ELM/PLM 設定が原因です。Cisco Prime Collaboration Assurance は大文字と小文字を区別するため、ELM/PLM 設定は CUCM のホスト名と一致する必要があります。

たとえば、CUCM 上で共存する ELM/PLM 設定のホスト名が lax-ccm-px.apl.com であり、CUCM のホスト名が LAX-CCM-PX.apl.com である場合、CUCM Pub の再検出を実行すると、CUCM Pub はインベントリから消滅するか、削除されます。

推奨アクション : Cisco Prime Collaboration Assurance の /etc/hosts ファイルを変更し、CUCM Pub を再検出します。次に示されたとおり、ホスト ファイルにエントリーを追加します。

10.8.2.20	LAX-CCM-PX.apl.com
-----------	--------------------

インベントリ ステータスのエラー メッセージ

クレデンシャル検証のエラー メッセージを次の表に示します。

表 9: クレデンシャル検証のエラー メッセージ

エラー メッセージ	状態	解決策
SNMP_ERROR	次のいずれかの原因により失敗します。 <ul style="list-style-type: none"> • デバイスで SNMP サービスが有効である • SNMP クレデンシャルが一致しません。 • ファイアウォールの設定によってポートがブロックされています。 	<ul style="list-style-type: none"> • デバイスで SNMP サービスが有効かどうか確認する • クレデンシャルプロファイルで、デバイスの SNMP クレデンシャルを確認して再入力します。 • ファイアウォールの設定によってポートがブロックされていることを確認し、適切なポートを使用してポートのブロックを解除します。必要なポートの詳細については、「Prime Collaborationに必要なポート」を参照してください。
UNKNOWN_ERROR	デバイスの検出中にエラーが発生します。	再検出を実行します。問題が解決しない場合は、TAC に連絡してサポートを受けてください。

エラーメッセージ	状態	解決策
INSUFFICIENT_INV_COLLECTION	デバイスの応答時間が予想よりも長い場合は、ネットワーク遅延が発生している可能性があります。	SNMP/HTTP(S) の応答時間を確認し、再検出を実行します。問題が解決しない場合は、TAC に連絡してサポートを受けてください。
HTTP_ERROR	<p>HTTP アクセスに失敗します。次のいずれかの原因により失敗します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HTTP(S) クレデンシャルが一致しない • ファイアウォールの設定によってポートがブロックされています。 	<ul style="list-style-type: none"> • クレデンシャルプロファイルで、デバイスのHTTP クレデンシャルを確認して再入力します。 • ファイアウォールの設定によってポートがブロックされていることを確認し、適切なポートを使用してポートのブロックを解除します。必要なポートの詳細については、「Prime Collaborationに必要なポート」を参照してください。

エラーメッセージ	状態	解決策
JTAPI_ERROR	JTAPIアクセスに失敗します ファイアウォールの設定によってポートがブロックされています。	<ul style="list-style-type: none"> • クレデンシシャルプロファイルで、デバイスのJTAPIクレデンシシャルを確認して再入力します。 <li style="margin-left: 20px;">(注) パスワードにはセミコロン (;) や等号 (=) を使用しないでください。 • ファイアウォールの設定によってポートがブロックされていることを確認し、適切なポートを使用してポートのブロックを解除します。必要なポートの詳細については、 「Prime Collaborationに必要なポート」を参照してください。 • JTAPI ユーザが Cisco Unified CM で設定されているかどうか確認します。JTAPIを有効にするための詳細については、 「Prime Collaboration Assurance 用にデバイスを設定」を参照してください。
aUNSUPPORTED_DEVICE	デバイスがサポートされていません。	サポートされているデバイスを「 Cisco Prime Collaboration Assurance でサポートされているデバイス」で確認します。
UNDISCOVERABLE	エラーが続きます。	再検出を実行します。問題が解決しない場合は、TAC に連絡してサポートを受けてください。

エラーメッセージ	状態	解決策
DISCOVERY_TOO_MANY_DB_CONNECTIONS	エラーが続きます。	再検出を実行します。問題が解決しない場合は、TAC に連絡してサポートを受けてください。

デバイス固有のインベントリ詳細

次の表に、追加のインベントリの詳細を説明するフィールドの説明を示します。

- [表 10 : Cisco Codec、MX、E20、MXP](#)
- [表 11 : Cisco TelePresence Movi](#)
- [表 12 : Cisco Unified IP Phone 8900 および 9900 シリーズ](#)
- [表 13 : CTMS](#)
- [表 14 : Cisco TMS](#)
- [表 15 : Cisco Unified CM](#)
- [表 16 : Cisco MCU および MSE](#)
- [表 17 : Cisco VCS](#)
- [表 18 : Cisco TelePresence Conductor](#)

表 10: Cisco Codec、MX、E20、MXP

フィールド		説明	
TelePresence Endpoint (選択したエンドポイントタイプの CTS、Cisco Codec、MX、E20、MXP、に基づいてデータが表示されます)	エンドポイント名	識別を容易にするためにエンドポイントに割り当てられた名前。	
	電話番号	エンドポイントで定義されている IP 電話の詳細です。	
	コール コントローラ		
	CUCM アドレス	エンドポイントが登録されている、Cisco Unified CM サーバのホスト名または IP アドレスです。	
	CUCM クラスタ ID	Cisco Unified CM サーバが登録されている Cisco Unified CM クラスタの ID です。	
	VCS アドレス	エンドポイントが登録されている VCS サーバのホスト名または IP アドレスです。	
	VCS クラスタ ID	VCS サーバが登録されている VCS クラスタの ID です。	
	登録ステータス	コール プロセッサ (Cisco Unified CM または VCS) でのエンドポイントの登録ステータスです。Cisco Unified CM または VCS が管理対象ではない場合は、表示される情報は [N/A] です。	
	H323 ID	Cisco Codec デバイスで設定されている H.323 ID です。	
	E164 No		

フィールド	説明
	Cisco Codec デバイスで設定されている E164 番号です。
H323 ゲートキーパー アドレス	Cisco Codec デバイスが登録されているゲートキーパーのネットワーク アドレスです。
SIP URI	Cisco Codec デバイスで登録されている SIP URI です。
SIP プロキシアドレス	Cisco Codec デバイスで手動設定されている SIP プロキシアドレスです。
アプリケーション マネージャ	
TMS	Cisco Codec デバイスが統合されているアプリケーション マネージャのホスト名または IP アドレスです。
スイッチの詳細	
スイッチに接続済み	エンドポイントが接続されているスイッチの詳細です。
接続済みポート	エンドポイントが接続されているスイッチ ポートの詳細です。
周辺機器	名前

フィールド		説明	
			アップリンク、電話機、カメラ、ディスプレイ、タッチスクリーンモニター、マイクなどのペリフェラルのタイプ。
位置		マイクの <i>front_center</i> など、周辺機器の位置です。	
MAC アドレス		周辺機器の MAC アドレスです。	
ソフトウェアバージョン		ペリフェラルで実行されているソフトウェアバージョンです。	
モデル		周辺機器のモデルです。	
シリアル		周辺機器のシリアル番号です。	
製造元		周辺機器の製造元の詳細です。	
ファームウェアバージョン		周辺機器のファームウェアバージョンです。	
ハードウェアバージョン		周辺機器のハードウェアバージョンです。	
Midlet バージョン		周辺機器で実行されている Midlet バージョンです。	



(注) Cisco Prime Collaboration Assurance は、Cisco TelePresence 150 MXP のペリフェラルの詳細をサポートしていません。

表 11 : Cisco TelePresence Movi

フィールド		説明
Movi	エンドポイント名	識別を容易にするためにエンドポイントに割り当てられた名前。
	SIP URI	Cisco TelePresence Movi エンドポイントで登録されている SIP URI です。
	VCS アドレス	エンドポイントが登録されている VCS のホスト名または IP アドレスです。
	VCS クラスタ ID	VCS が登録されている VCS クラスタの ID です。

表 12: Cisco Unified IP Phone 8900 および 9900 シリーズ

フィールド		説明
CUCM エンドポイント	エンドポイント名	識別を容易にするためにエンドポイントに割り当てられた名前。
	モデル	CP-8945 や CP-9971 などのエンドポイントのモデルです。
	電話番号	エンドポイントで定義されている IP 電話の詳細です。
	シリアル番号	エンドポイントのシリアル番号です。
	説明	コールプロセッサで定義されているエンドポイントの説明です。
	コール コントローラ	
	CUCM アドレス	エンドポイントが登録されている、Cisco Unified CM サーバのホスト名または IP アドレスです。
	CUCM クラスタ ID	Cisco Unified CM サーバが登録されている Cisco Unified CM クラスタの ID です。
	登録ステータス	コールプロセッサ (Cisco Unified CM) でのエンドポイントの登録ステータスです。Cisco Unified CM が管理対象ではない場合は、表示される情報は [N/A] です。
	スイッチの詳細	
	スイッチに接続済み	エンドポイントが接続されているスイッチの詳細です。
	接続済みポート	エンドポイントが接続されているスイッチ ポートの詳細です。

フィールド		説明
ステータス	接続や未接続などの Wi-Fi 接続のステータスを表示します。	
IP アドレス	Wi-Fi ネットワークを使用して接続する際に、エンドポイントの管理に使用する IP アドレスです。	
デフォルト ルータ	エンドポイントが接続されているデフォルトルータの IP アドレスです。	
アクセス ポイント名	エンドポイントが接続されているアクセス ポイントの名前です。	
イーサネットの詳細		
ステータス	接続や未接続などのイーサネット接続のステータスを表示します。	
IP アドレス	イーサネットを使用して接続する際に、エンドポイントの管理に使用する IP アドレスです。	



(注) Cisco Unified IP Phone 8900 および 9900 シリーズの検出には、HTTP インターフェイスを有効にする必要があります。HTTP インターフェイスが有効になっていない場合は、これらのデバイスはインベントリ テーブルに表示されません。

表 13: CTMS

フィールド		説明
マルチポイント スイッチ	タイムゾーン	マルチポイント スイッチで設定されたタイムゾーンです。
	SKU	—
	ハードウェア モデル	マルチポイント スイッチが実行されているメディア コンバージェンス サーバの型番です。
	ソフトウェア バージョン	管理ソフトウェアが現在インストールしているマルチポイント スイッチのバージョン。
	OS バージョン	オペレーティング システムのバージョンです。
	ホスト名	マルチポイント スイッチに設定されているホスト名。
	IP アドレス	マルチポイント スイッチの管理に使用される IP アドレスです。
	サブネット マスク	IP アドレスで使用されるサブネット マスクです。
	MAC アドレス	マルチポイント スイッチソフトウェアが実行されているメディア コンバージェンスサーバのMACアドレスです。このMACアドレスは、イーサネット インターフェイス 0 (eth0 ネットワーク インターフェイス カード (NIC)) に属します。フェールオーバーでは、このMACアドレスは、別のイーサネット インターフェイスがアクティブになっても保持されます。
	スイッチの詳細	
スイッチに接続済み		

フィールド		説明
		マルチポイント スイッチが接続されるスイッチの詳細です。
	接続済みポート	マルチポイント スイッチが接続されるスイッチ ポートの詳細です。
	アドホック セグメント	緊急会議で使用可能なセグメントの最大数です。最大値は48です。
	最大セグメント	このマルチポイント スイッチが処理できるセグメント（個々のビデオ ディスプレイ）の合計数です。最大値は48です。
	スケジュール設定可能	スケジュール済み会議で常に使用できるセグメントの数。マルチポイント スイッチは、定義された最大セグメント数から、定義されたアドホックセグメントの数を引くことにより、この値を自動的に導出します。

表 14: Cisco TMS

フィールド	説明
アプリケーション マネージャ	SKU
	ハードウェア モデル
	ソフトウェア バージョン
	OS バージョン
	ホスト名
	IP アドレス
	サブネット マスク
	MAC アドレス

フィールド	説明	
システムの接続（この表の後の注を参照）	ステータス	Exchange サーバが実行しているか、ダウン状態かを示します。
	IP アドレス	Exchange サーバに割り当てられる IP アドレスです。
	ソフトウェア バージョン	Exchange サーバに現在インストールされているソフトウェアのバージョン。
	ステータス	LDAP サーバが実行しているか、ダウン状態かを示します。
	IP アドレス	LDAP サーバに割り当てられる IP アドレス。
	ソフトウェア バージョン	LDAP サーバに現在インストールされているソフトウェアのバージョンです。

表 15: Cisco Unified CM

フィールド	説明	
[コールプロセッサ (Call Processor)]	クラスタ ID	クラスタの一意の ID を提供するパラメータです。このパラメータは、コール詳細レコード (CDR) で使用されるため、複数のクラスタからの CDR レコード収集はソースに対して追跡できます。デフォルトは StandAloneCluster です。
	パブリッシャ ホスト名	クラスタ パブリッシャ に設定されているホスト名です。
	登録済み CTS エンドポイント	コールプロセッサに登録されているエンドポイントの数です。
	合計 CTS エンドポイント	エンドポイントの合計数です。

表 16: Cisco MCU および MSE

フィールド		説明
MCU または MSE の詳細 (選択した会議デバイスが MCU か MSE かに基づいてデータが表示されます)	ハードウェア モデル	マルチポイントスイッチが実行されているメディア コンバージェンス サーバの型番です。
	シリアル番号	マルチポイント コントロール ユニット (MCU) のシリアル番号です。
	ソフトウェア バージョン	管理ソフトウェアが現在インストールしているマルチポイントスイッチのバージョン。
	MCU タイプ/デバイス タイプ	MCU またはデバイスのタイプです。
	ビルド バージョン	インストールされたソフトウェアのビルドバージョンです。
	メーカー	製造元の名前です。
	ホスト名	デバイスに設定されたホスト名 (MCU または Media Service Engine) 。
	IP アドレス	MCU または MSE Web ユーザ インターフェイスへのアクセスに使用する MCU または Media Service Engine (MSE) ネットワーク インターフェイスのローカル IP アドレス。
	サブネット マスク	IP アドレスで使用されるサブネット マスクです。
	MAC アドレス	イーサネット ポートの固定ハードウェア MAC アドレスです。
ルータに接続済み	MCU または MSE が接続されているルータの IP アドレスです。	
クラスタ タイプ		

フィールド	説明
	クラスタがマスターかスレーブかを示します。クラスタが設定されている場合は、[未設定 (Not Configured)]が表示されます。
ビデオ ポートの合計数	MCUで設定されているビデオポートの数です。(MCUデバイスに対してのみ表示されるデータ)
音声ポートの合計数	MCUで設定されている音声ポートの数です。(MCUデバイスに対してのみ表示されるデータ)
SIP (MCU デバイスに対してのみ表示されるデータ)	
ステータス	SIPの登録がイネーブルかディセーブルかを示します。
プロキシ	SIP プロキシのネットワークアドレス。
ドメイン	MCUが登録されている SIP レジストラのネットワークアドレス。
H.323 (MCU デバイスに対してのみ表示されるデータ)	
ステータス	H.323ゲートキーパーの登録がイネーブルかディセーブルかを示します。
ゲートキーパー ID	H.323ゲートキーパーへの登録時に MCU で使用される ID です。
ゲートキーパー アドレス	MCUが登録されているゲートキーパーのネットワークアドレスです。

フィールド		説明
MSE ブレード (MSE に対してのみ表示されるデータ)	タイプ	ブレードのタイプです。
	スロット	スロット番号スロット 1 は MSE スーパーバイザです。スロット 2-10 はブレードです。
	ソフトウェア バージョン	使用されているソフトウェアのバージョンです。
	ステータス	ブレードのステータスで、OK または空です。
	Port A IP アドレス	Port A の IP アドレスです。
	Port B IP アドレス	Port B の IP アドレスです。

表 17: Cisco VCS

フィールド		説明
[コールプロセッサ (Call Processor)]	クラスタ ID	別の VCS のクラスタを識別するために使用するクラスタ名です。
	Master	クラスタ マスターとして設定された VCS ピアの名前です。
	登録済みのエンドポイント	VCS に登録されているエンドポイントの数です。
	ピア	クラスタ内で設定されている VCS ピアの数です。

フィールド		説明
VCS Configuration	タイムゾーン	VCS で設定されたタイムゾーンです。
	Maximum Traversal Calls	VCS で利用可能なトラバーサルコールライセンスの数です。
	Maximum Non-Traversal Calls	VCS で利用可能な非トラバーサルコールライセンスの数です。
	Maximum Registrations	VCS に登録可能なエンドポイントの数です。
	Expressway	VCS Expressway が設定されているかどうかを示します。
	Interworking	H.323 システムから SIP システムへ接続できるように VCS が設定されているかどうかを示します。
	暗号化	ソフトウェアビルドで AES 暗号化を使用できるかどうかを示します。
	Find Me	FindMe が有効または無効のどちらになっているかを示します。
	デバイス プロビジョニング	VCS でプロビジョニングサーバがイネーブルかどうかを示します。
	Dual Network Interface	VCS Expressway 上で LAN 2 インターフェイスがイネーブルかどうかを示します。
Starter Pack	Starter Pack オプション キーがインストールされているかどうかを示します。	



(注) Cisco Prime Collaboration Assurance は、Cisco VCS アプリケーションとアプライアンスの両方を管理します。

表 18 : Cisco TelePresence Conductor

フィールド		説明
TelePresence Conductor	名前	コンダクタに設定されたホスト名です。
	IP アドレス	コンダクタの IP アドレスです。
	ソフトウェア バージョン	現在インストールされているソフトウェアのバージョン
	Cluster Master	クラスタ マスターとして設定されたコンダクタ ピアの名前。
	Cluster Peers	クラスタ内で設定されているコンダクタ ピアの数。
	Total Registered MCUs	コンダクタに登録されている MCU の数。
	ソフトウェア ID	コンダクタ上のソフトウェアの ID。
	ハードウェアのシリアル番号	コンダクタ ハードウェアのシリアル番号。

フィールド	説明	
Registered MCUs	名前	コンダクタに登録されている MCU の名前。
	IP アドレス	コンダクタに登録されている MCU の IP アドレスです。
	タイプ	コネクタに登録されている MCU のタイプです。
	Pool	MCU クライアントが属する MCU プール。
	Blacklisted	リストされた MCU はコンダクタでは使用されません。
	Blacklisted Reason	その MCU がコンダクタで使用されない理由。
	Media Load: Allocated/In Use/Max Available	メディア ロードが割り当てられた、使用中、および使用可能な最大ロード。
	Signalled Load: Allocated/In Use/Max Available	シグナル ロードが割り当てられた、使用中、および使用可能な最大ロード。



(注) Cisco TelePresence Conductor が制御する MCU のカスケードのみがサポートされます。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合



(注) 次のデバイスはサポートされていません。

- Cisco TelePresence Multipoint Switch (CTMS)
- Cisco TelePresence-Manager (CTS-MAN)

インベントリ詳細の更新と収集

インベントリの詳細を更新および収集する方法は、音声、ビデオ、またはその両方で導入されたネットワークの種類によって異なります。また、指定されたポイントで収集するデータに

よっても異なります。次の表には、ネットワークに基づきインベントリを更新するタイミングの推奨事項が示されています。

表 19: インベントリの更新に関する推奨事項

説明	タスク
<p>ネットワークに音声とビデオの両方のエンドポイントが導入されている場合に、両方のデータを収集します。</p>	<p>インベントリの更新を実行します ([デバイスインベントリ (Device Inventory)] > [インベントリ管理 (Inventory Management)] > [現在のインベントリ (Current Inventory)]。詳細については、インベントリの更新を参照してください。</p> <p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合</p> <p>選択 [インベントリ (Inventory)] > [インベントリ管理 (Inventory Management)] > [インベントリの更新 (Update Inventory)]</p>
<p>音声とビデオの両方のエンドポイントがネットワークに導入されており、ビデオのエンドポイントのみでデータを収集します。</p>	<p>インベントリの更新を実行します ([デバイスインベントリ (Device Inventory)] > [インベントリ管理 (Inventory Management)] > [インベントリの更新 (Update Inventory)]。詳細については、インベントリの更新を参照してください。</p> <p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合</p> <p>選択 [インベントリ (Inventory)] > [インベントリ管理 (Inventory Management)] > [インベントリの更新 (Update Inventory)]</p>
<p>音声とビデオの両方のエンドポイントがネットワークに導入されており、音声のエンドポイントのみでデータを収集します。</p>	<p>を実行します (を選択します)。保証管理 (Assurance Administration)。詳細については、インベントリ詳細の収集を参照してください。</p> <p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合</p> <p>選択 アラーム & レポート管理。</p>

説明	タスク
音声ネットワークのみを使用している場合	<p>クラスターデータの検出を実行します（を選択します）。保証管理（Assurance Administration）。詳細については、インベントリ詳細の収集を参照してください。</p> <p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合</p> <p>選択 アラーム & レポート管理。</p>
ビデオネットワークのみを使用している場合	<p>インベントリの更新を実行します（[デバイスインベントリ（Device Inventory）]>[インベントリ管理（Inventory Management）]>[インベントリの更新（Update Inventory）]。詳細については、インベントリの更新を参照してください。</p> <p>Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合</p> <p>選択 [インベントリ（Inventory）]>[インベントリ管理（Inventory Management）]>[インベントリの更新（Update Inventory）]</p>

インベントリの更新

Update Inventory タスクを使用すると、Cisco Prime Collaboration Assurance のインベントリ データベースをネットワークに同期することができます。このタスクでは、アクセシビリティの検証が実行されません（「Update Inventory のライフサイクル」の図を参照）。

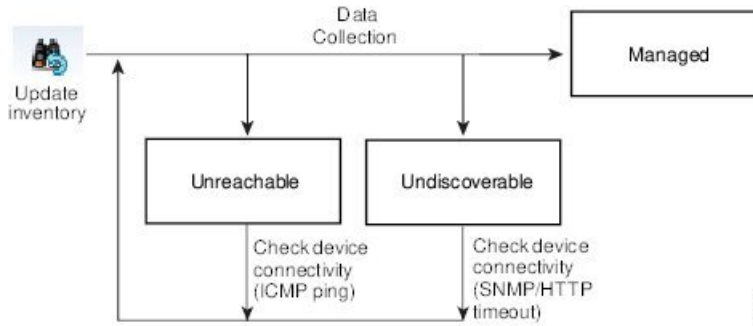
次の場合に Update Inventory タスクを実行します。

- ネットワークで管理されているすべてのデバイスのデータベースを同期する必要がある場合。ただし、デバイスステータス基準に基づいて、特定のデバイスの詳細な構成を更新することができます。
- Cisco Prime Collaboration Assurance データベースを最新の状態に保つために、定期的な Update Inventory ジョブを定義する必要がある場合。
- ネットワークデバイスのインターフェイスに変更がある場合。



(注) ネットワークに追加された新しいデバイスは特定されません。

図 1: Update Inventory のライフサイクル



Cisco Prime Collaboration Assurance データベースを最新の状態に保つために、定期的な Update Inventory を定義することを推奨します。

インベントリを更新するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 を選択します。[デバイスインベントリ (Device Inventory)] > [インベントリ管理 (Inventory Management)]。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

移行方法 [インベントリ (Inventory)] > [インベントリ管理 (Inventory Management)]

ステップ 2 インベントリ管理 ページで、[インベントリの更新 (Update Inventory)] をクリック します。

ステップ 3 デバイスのステータスに基づいてインベントリを更新する場合は、[インベントリの更新 (Update Inventory)] ウィンドウの [デバイスの条件に基づいてデバイスを更新する (Update devices based on device criteria)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウンリストから必要なデバイスの条件を選択します。

デバイスのステータスに基づいてインベントリを更新するように選択した場合、アクセシビリティ情報のチェックが実行されます。この選択を行わない場合、管理状態のすべてのデバイスでインベントリが更新されます。デバイスのアクセシビリティはチェックされません。

定期的なインベントリ更新ジョブのスケジュールを設定するには、**ステップ 4** を追加で実施します。ジョブをただちに実行するには、**ステップ 5** に進みます。

ステップ 4 ジョブ名とスケジュールの詳細を入力します。フィールドの説明については、「[ジョブ スケジュール - フィールドの説明](#)」を参照してください。

ステップ 5 [今すぐ実行 (Run Now)] をクリックしてインベントリ更新ジョブをすぐに実行するか、[スケジュール (Schedule)] をクリックして定期的なインベントリ更新ジョブをスケジュールします。

ステップ 6 ジョブのステータスを確認するには、次のいずれかを実行します。

- [今すぐ実行 (Run Now)] をクリックする場合は、表示される進行状況ウィンドウで進捗状況の詳細をクリックします
- [] [インベントリ管理 (Inventory Management)] ページの [検出ジョブ (Discovery Jobs)] ボタンをクリックします。

ジョブスケジュール-フィールドの説明

表 20: ジョブスケジュール-フィールドの説明

フィールド	説明
Start Time	[開始時刻 (Start Time)] を選択して、開始の日時を <code>yyyy/MM/dd</code> および <code>hh:mm AM/PM</code> の形式で入力します。あるいは、日付ピッカーをクリックして、カレンダーから開始の日時を選択します。表示される時刻は、クライアントのブラウザの時刻です。スケジュールされた定期的ジョブは、この指定時刻に実行されます。
繰り返し	[なし (None)]、[毎時 (Hourly)]、[毎日 (Daily)]、[毎週 (Weekly)]、[毎月 (Monthly)] のいずれかを選択し、ジョブの期間を指定します。
設定	ジョブ期間の詳細です。
終了時刻	終了日時を指定する必要がある場合は、[終了日時なし (No End Date/Time)] をクリックします。終了日時を <code>yyyy/MM/dd</code> と <code>hh:mm AM/PM</code> の形式で入力するには、[終了 (End at)] をクリックします。

インベントリ詳細の収集

Cisco Prime Collaboration Assurance は、管理対象デバイスに登録されたデバイスと電話に関するデータを収集および更新することによって、管理対象デバイスのオンデマンドインベントリ更新をサポートします。

電話、XML 電話、クラスタのすべての追加、削除、および変更は、インベントリに反映されます。電話機とクラスタには、個別のインベントリ収集スケジュールがあります。クラスタ検出の詳細については、「[クラスタデータ検出の設定](#)」を参照してください。

追加のスケジュールは作成できません。編集できるのは、既存のスケジュールのみです。電話機の場合は、複数のインベントリ収集スケジュールを作成できます。



- (注) Cisco Unified CM クラスタの定期的な検出のみをスケジュールできます。他のクラスタに登録された電話は検出されません。詳細については、「[クラスタデータ検出の設定](#)」を参照してください。

Cisco Prime Collaboration Assurance によって電話や Cisco Unified CM クラスタのインベントリ収集が実行されるときに、これらの電話やクラスタはさまざまなデバイス状態を経て Cisco Prime Collaboration Assurance によって完全に認識されます（詳細については、「[デバイスの状態](#)」を参照してください）。

インベントリ収集で管理される電話機およびクラスタに関する情報を収集する頻度を指定できます。インベントリ収集のスケジュールを設定するには、を選択します。**保証管理 (Assurance Administration)**。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

[インベントリ収集 (Inventory Collection)] をスケジュールするには、[アラームとレポートの管理 (Alarm & Report Administration)] を選択します。

インベントリ収集タスクの概要については、次の表を参照してください。

表 21: インベントリ収集タスクの概要

タスク	説明
クラスタ デバイスのインベントリ収集のスケジュール設定	Cisco Prime Collaboration リリース 12.1 以降の場合 [インベントリ (Inventory)] > [クラスタ データ検出のスケジュール (Cluster Data Discovery Schedule)] クラスタ デバイス検出スケジュールを追加、編集、または削除するには(詳細については、 クラスタ デバイスの検出をスケジュール を参照してください)

管理対象デバイスの一時停止と再開

管理対象状態のデバイスを一時停止できます。デバイスを一時停止状態に入った後は、Cisco Prime Collaboration Assurance によってこのデバイスが監視されることはありません。つまり、会議、エンドポイント、およびインベントリの詳細は更新されず、このデバイスに対するアラームはトリガーされません。

次に、一時停止状態のデバイスの動作を示します。

- デバイスが一時停止状態の場合、Cisco Prime Collaboration Assurance によってデバイスはポーリングされません。
- 一時停止中のエンドポイントが新しい会議に参加すると、そのエンドポイントは、[会議 (Conference)] [トポロジ (Topology)] ペインに [不明 (Unknown)] として表示されます。
- 一時停止中のエンドポイントがすでに進行中の会議にある場合は、エンドポイントの状態が [一時停止 (Suspended)] に変更された直後に、エンドポイントアイコン ([会議 (Conference)] [トポロジ (Topology)] ペイン内)) が [不明 (Unknown)] に変わります。

- Cisco Unified CM Publisher が一時停止されている場合、対応する Cisco Unified CM クラスタに属する登録済みのエンドポイントは、Cisco Prime Collaboration Assurance によってポーリングされません。
- アクティブアラームがある場合、すぐにはクリアされません。手動でアラームをクリアするか、期限切れ（デフォルトは 24 時間）後に自動的にクリアされます。一時停止されたデバイスでは、新しいアラームはトリガーされません。
- 現在のクラスタに対してバックグラウンドジョブ（エンドポイントの同期、電話 XML など）が実行されている場合は、CUCM デバイスを削除することができません。
- **Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合**
一時停止されたエンドポイントがトラブルシューティングジョブにある場合、一時停止されたエンドポイントからトラブルシューティングを実行することはできません。ただし、一時停止されたエンドポイントまでトラブルシューティングを実行できます。
- デバイスが一時停止された場合、Endpoint Utilization レポートには、このデバイスのデータは含まれません。
- **Cisco Prime Collaboration リリース 12.1 SP2 以降の場合**
TC/CE エンドポイント管理ステータスが「管理対象」から「一時停止」に変更された場合は、登録を解除する必要があります。

管理対象デバイスを一時停止または再開するには:

ステップ 1 を選択します。[デバイスインベントリ (Device Inventory)] > [インベントリ管理 (Inventory Management)]。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

移行方法 [インベントリ (Inventory)] > [インベントリ管理 (Inventory Management)]

ステップ 2 [Current Inventory] テーブルから、管理対象または一時停止デバイスで選択します。

ステップ 3 [Suspend] または [Resume] をクリックします。

ステップ 4 確認メッセージボックスで [OK] をクリックします。

(注) 削除オプションを使用してインベントリから電話機を直接削除することはできません。電話機が登録されたクラスタが削除されると、電話機も自動的に削除されます。インベントリは、再検出の実行後にのみ更新されます。

デバイスの削除

状態が [Unknown]、[Unreachable]、[Inaccessible]、[Undiscoverable]、[Suspended]、[Unsupported] のデバイスは削除できます。[管理対象 (Managed)] 状態のデバイスは削除できません。

デバイスは削除された後、[現在のインベントリ (Current Inventory)] テーブルには表示されませんが、詳細は Cisco Prime Collaboration Assurance サーバで参照できます。削除されたデバイスを再検出するには、「[デバイスの再検出](#)」を参照してください。過去の会議データの一部として、削除されたデバイスの詳細にアクセスできます。

Cisco Prime Collaboration リリース 12.1 以降の場合

状態が [Unknown]、[Unreachable]、[Inaccessible]、[Undiscoverable]、[Suspended]、[Unsupported] のデバイスは削除できます。[管理対象 (Managed)] 状態のデバイスは削除できません。

デバイスは削除された後、[現在のインベントリ (Current Inventory)] テーブルには表示されませんが、

古い IP エントリを含むエンドポイントを DEVICE_REMOVED フィードバックの一部として削除し、新しい IP エントリ (VCS の新しいエンドポイントとして見なされる) を別途追加する必要があります。

Cisco Prime Collaboration リリース 12.1 SP2 以降の場合

TC/CE エンドポイントがインベントリから削除された場合は、HTTPS フィードバック サブスクリプションがエンドポイントから削除されます。

削除状態でのデバイスの動作を次に示します。

1. 現在のクラスタに対してバックグラウンドジョブ (エンドポイントの同期、電話 XML など) が実行されている場合は、CUCM デバイスを削除することができません。
2. Cisco Prime Collaboration Assurance では、すべての同時セッションに対して一度に 1 つの削除要求のみ実行可能です。他のセッションからデバイスまたはエンドポイントを削除しようとする、「同時実行の削除操作がバックグラウンドで実行されています。しばらくしてからもう一度お試しください (Concurrent delete operation is running in background, please try after sometime)」というメッセージが表示されます。
3. Cisco Prime Collaboration Assurance では、いったん削除または削除されたデバイス情報は保持されません。デバイス管理ステータスで DELETED 状態ではなくなります。

デバイスを削除する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 を選択します。[デバイスインベントリ (Device Inventory)] > [インベントリ管理 (Inventory Management)]。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

移行方法 [インベントリ (Inventory)] > [インベントリ管理 (Inventory Management)]

ステップ 2 [現在のインベントリ (Current Inventory)] テーブルから、削除するデバイスを選択します。

クイック フィルタを使用して、対象とする状態のデバイスのリストを取得できます。

ステップ 3 [Delete] をクリックします。

ステップ 4 確認メッセージボックスで [OK] をクリックします。

- (注) 削除オプションを使用してインベントリから電話機を直接削除することはできません。電話機が登録されたクラスタが削除されると、電話機も自動的に削除されます。インベントリは、再検出の実行後にのみ更新されます。

トラブルシューティング

問題： Managed の状態のデバイスは削除できません。

推奨処置： まずデバイスが一時停止されていることを確認してから、デバイスを削除してください。

パフォーマンス グラフ

Cisco Prime Collaboration Assurance ではネットワーク パフォーマンス メトリックを選択し、変更を確認できます。収集されたデータ以外に、ネットワーク パフォーマンス データをリアルタイムに選択、表示、図化することができます。

パフォーマンス グラフには、[\[アラームとイベント \(Alarm & Events\)\]](#) ページ、[\[デバイス 360° \(Device 360°\)\]](#) ビュー、[\[診断の概要 \(Diagnostic Summary\)\]](#) ページからアクセスできます。次の場合に、現在またはリアルタイムのデータからパフォーマンス グラフを作成できます。

- デバイスの音声使用率ポーリングがイネーブル
- デバイスは管理状態です。



- (注) パフォーマンス グラフを表示できるのは、音声デバイス（電話機を除く）のみが対象です。表示されるグラフは、管理状態にあり、少なくとも1つのポーリングサイクルが含まれているデバイスのみが対象です。

パフォーマンス グラフに関する特記事項

この項では、パフォーマンス グラフを使用する場合の注意事項について説明します。

概要	説明
<p>シスコでは、最適なパフォーマンス グラフ ビューに関する次のガイドラインに従うことを推奨します。</p>	<p>次のガイドラインが推奨されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1つのグラフに対して5メトリック以下にします。 • ユーザーインターフェイスには10個以下のグラフにします。 • マージには10項目以下を選択します。
<p>Catalyst 6000 スイッチ上の MGCP ゲートウェイ。3種類すべての機能（音声ゲートウェイ、スイッチ、MGCP）がある場合は、パフォーマンス グラフではすべてのデータをグラフ化できません。代表的なメトリックだけがグラフで使用できます。</p>	<p>3種類の機能（音声ゲートウェイ、スイッチ、MGCP）を備えたデバイスのパフォーマンスメトリックをグラフ化するときは、代表的なメトリックだけがグラフ化できます。[Event Details] ページには、HighUtilization イベントをグラフ化できません。</p>
<p>音声ゲートウェイ、MGCP、およびルータの H323。1つのデバイスにこの3種類すべての機能がある場合は、メトリック別に2種類のグラフを表示します。</p>	<p>これら3種類の機能（音声ゲートウェイ、MGCP、ルータの H323）を持つデバイスのパフォーマンスメトリックをグラフ化する場合、メトリック別に2種類のグラフを表示します。また、複数のデバイスまたは複数のポーリング間隔を持つデバイスをグラフ化する場合、少なくとも2つ以上の共通のポーリング間隔でx軸をプロットします。リアルタイムでグラフ化すると、この共通のポーリング間隔でリフレッシュされます。</p>
<p>Cisco Unity Express サーバ（CUES）は、リアルタイム データをグラフ化し、リアルタイムで更新します。折れ線から棒グラフに切り替え、特定のデータを拡大して、トラブルシューティングを実行し、ピーク使用率の期間を検索できます。</p>	<p>Cisco Prime Collaboration Assurance がデータを収集し、このデータを受信するよう適切に設定されていることを確認します。</p>

パフォーマンス グラフの起動

次の項目からパフォーマンス グラフを使用できます。

- [デバイス 360 度 (Device 360 degree)] ビュー：[起動ツール (Launch Tools)] アイコンをクリックし、[パフォーマンス グラフ (Performance Graph)] をクリックします。
- Event Details ページ
- 診断ビュー：UCM クラスタ コール使用概要のサーバおよびクラスタ ビュー、UCM リソース使用率概要および UCM クラスタ ロケーション概要のクラスタ ビュー、ならびにトラ

リンク使用率は、UCM リソース使用率概要ポートレットのクラスタ ビューを介してアクセスできます。

始める前に

- Cisco Prime Collaboration Assurance が、使用率統計を収集するデバイスを監視していることを確認します。これには、ポートが登録されている Cisco Unified Communications Manager も含まれます。
- 音声使用のポーリング設定が有効になっていることを確認します。Cisco Prime Collaboration Assurance は、ネットワーク パフォーマンスをグラフ化するため、音声使用のポーリング中に収集した統計を使用します。
- パフォーマンス グラフの注釈を確認します。

パフォーマンス グラフ ウィンドウ

パフォーマンス グラフでは、リアルタイム情報と履歴情報を提供します。

パフォーマンス グラフを起動すると、選択したメトリックごとに 1 行のグラフが表示されます。各折れ線グラフには、リアルタイムで表示される 16 個のデータ ポイントがあります。次の表には、データ オプションの詳細が示されています。

グラフ データ オプション	説明
Real Time	パフォーマンス グラフを起動すると、デフォルトではリアルタイム データが表示されます。
Hourly Average	[毎時平均 (Hourly Average)] を選択すると、パフォーマンス グラフには時間の平均データが表示されます。
Hourly Max	[毎時最大 (Hourly Max)] を選択すると、パフォーマンス グラフには時間の最大データが表示されます。
Hourly Min	[毎時最小 (Hourly Min)] を選択すると、パフォーマンス グラフには時間の最小データが表示されます。
履歴	[履歴 (History)] を選択すると、パフォーマンス グラフには 7 日間の毎時平均データが表示されます。
すべて	すべてのデータが表示されます。グラフには、最大 130 ポイントが表示されます。ズーム/パン ビューのデータ範囲に 130 ポイント以上含まれている場合、Cisco Prime Collaboration Assurance は一定の間隔をあけてポイントを選択し、グラフにプロットします。

パフォーマンス グラフのトラブルシューティング

この項には、パフォーマンスグラフ生成時に発生した問題の解決に役立つ情報が含まれています。エラーが発生した場合は、メニューの [パフォーマンスのグラフ作成 (Performance Graphing)] を選択した場合、または Cisco Prime Collaboration Assurance がグラフ化するデータファイルの確認中に表示されます。前者の (Performance Graphing を選択した) 場合は、問題と対処法が記されたエラーメッセージが表示されます。次の表には、この2つのタイプのケースでエラーおよび考えられる原因が示されています。

エラー	考えられる原因
データを収集できません	<ul style="list-style-type: none"> • アカウントおよびクレデンシャルがクラスタ内のすべての Cisco Unified Communications Managers で同一ではありません。 • HTTP サーバの問題： <ul style="list-style-type: none"> • デバイスの HTTP サーバがダウンしています。 • HTTP サーバは動作しているが、Cisco Unified Communications Managers がダウンしています。 • ネットワークの問題でデバイスに到達できません。 • Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合 メディアサーバでパフォーマンスモニタリングのプロセスがダウンしています。 • MGCP ゲートウェイが登録されている Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Prime Collaboration Assurance インベントリにはありません。 • デバイスの機能がサポートされていません。パフォーマンスのグラフ化では、Cisco Unity、Cisco Unity Express、Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Communications Manager Express、H.323 デバイス、Voice Mail Gateway がサポートされています。 • デバイスが一時停止しているか削除されています。 • デバイスのプラットフォームがサポートされていません。 <p>サポートされているデバイスの一覧については、「Cisco Prime Collaboration Assurance でサポートされているデバイス」を参照してください。</p>

エラー	考えられる原因
<p>次の理由により、データを収集できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デバイスのユーザ名またはパスワードが指定されていません。 • システムが保有するデバイスのクレデンシヤルが正しくありません。 • デバイスにクレデンシヤル情報がありません。 	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Prime Collaboration Assurance にクレデンシヤルがありません。 • Cisco Prime Collaboration Assurance のクレデンシヤルが正しくありません。 <p>クレデンシヤルを追加するには、「デバイス クレデンシヤル プロファイルの追加」を参照してください。</p>
<p>次の理由により、デバイスからデータを収集できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 処理エラーが発生しました。 • 解析または処理エラーが発生しました。 • 内部で初期化エラーが発生しました。 • デバイスのデータ コレクタで初期化エラーが発生しました。 	<p>Cisco Unified Communications Manager のバージョンが正しくありません。次の点を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デバイスで実行している Cisco Unified Communications Manager バージョンを確認します。 • Cisco Prime Collaboration Assurance に格納されている Cisco Unified Communications Manager バージョン番号を確認します。 • Cisco Prime Collaboration Assurance に格納されている Cisco Unified Communications Manager バージョン番号が正しくない場合は、デバイスをもう一度追加します。 <p>サポートされているデバイスの一覧については、「Cisco Prime Collaboration Assurance でサポートされているデバイス」を参照してください。</p>
<p>デバイスからデータを収集できません。認証のホスト名/IP アドレスを URL のホスト名/IP アドレスにマップできません。</p>	<p>デバイスが DNS 内にありません。</p>

エラー	考えられる原因
<p>デバイスとの通信でエラーが発生したためにデータ収集が完了しません。</p>	<p>Cisco Unified Communications Manager のバージョンが正しくありません。次の点を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デバイスで実行している Cisco Unified Communications Manager バージョンを確認します。 • Cisco Prime Collaboration Assurance に格納されている Cisco Unified Communications Manager バージョン番号を確認します。 • Cisco Prime Collaboration Assurance に格納されている Cisco Unified Communications Manager バージョン番号が正しくない場合は、デバイスをもう一度追加します。 <p>サポートされているデバイスの一覧については、「Cisco Prime Collaboration Assurance でサポートされているデバイス」を参照してください。</p>
<p>次の理由により、データを収集できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デバイスが、必要な MIB からデータを戻しませんでした。 • デバイスは MIB データを受信しませんでした。 	<ul style="list-style-type: none"> • 必要な MIB からのデータがありません。 • 必須 MIB がデバイスに入力されていません。 • MIB の戻りデータがありません。 • ネットワーク障害が原因でデバイスが到達不能です。 • デバイスのクレデンシャルに有効な SNMP コミュニティリードストリングが含まれていません。 • SNMP の応答が低速化しています。データ収集がタイムアウトしました。
<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager の照会レートが上限を超えました。 • データ処理の段階でエラーが発生しました。 	<p>Cisco Unified CM 6.0 以降で実行された照会が多すぎます。</p> <p>ポーリング設定を確認し、3分未満である必要があります。</p>

エラー	考えられる原因
<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager が照会リクエストを処理する時間が足りませんでした。 • データ処理の段階でエラーが発生しました。 	Cisco Unified CM 6.0以降で実行された照会で、処理時間の上限が超過しました。
Cisco Unity または Unity Express のトランク使用率グラフが機能していません。	Cisco Prime Collaboration Assurance は、最大容量を使用して適切に設定する必要があります。

パフォーマンス グラフを使用する場合は、次のことに注意してください。

- パフォーマンス データを収集できず、エラー メッセージ（ポップアップ メッセージまたはログファイルのメッセージ）も表示されない場合は、デバイスのステータスを確認する必要があります。これを行うには、[デバイスの表示/再検出/削除（View/Rediscover/Delete Devices）] ページを使用します。デバイスが到達不能状態の場合は、デバイスのクレデンシャルが正しいことを確認し、デバイスを再検出します。
- グラフに灰色の線または灰色の領域が表示されている場合は、その上にマウスカーソルを合わせると、説明が記載されたツール ヒントを取得できます。

Unified CM デバイスの検索

ユーザが指定した検索条件に基づいて、クラスタ内のデバイスを検索できます。

Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードで展開した場合は、検索結果がグローバルカスタマー選択に応じて異なります。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

デバイス検索を実行するには、[インベントリ（Inventory）]>[UC デバイスの検索（UC Device Search）]の順に移動します。[保存済み検索（Saved Search）] ドロップダウンリストから選択された保存済みの検索条件に基づいて、デバイスを表示できます。



- (注) テーブルには、200 個のエントリのみが表示されます。したがって、目的の結果を確実に得るには、フィルタ条件を最大限に使用することを推奨します。

新しい検索条件を作成するには：

ステップ 1 Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

移行方法 [インベントリ（Inventory）]>[UC デバイスの検索（UC Device Search）]。

ステップ 2 [クラスタ (Cluster)] ドロップダウン リストからクラスタを選択します。

[クラスタ (Cluster)] ドロップダウン リストでデバイスを検索することもできます。

ステップ 3 [New Search] をクリックします。

ステップ 4 基準名、デバイス タイプ、およびポーリング間隔を入力します

DB オプションに設定されたデバイスだけを選択すると、デバイス タイプを除くポーリング間隔またはその他のパラメータを指定できません。このオプションには不明な状態のデバイスが表示されます。

同じユーザが同じクラスタに同じ検索基準名を使用することはできません。同じユーザが別のクラスタにこの条件名を使用することはできません。

ステップ 5 カスタム検索については、CallManager、デバイス モデル、およびネームパラメータによる検索内のステータスを指定します。

使用できる検索条件は、選択したデバイス タイプによって異なります。

ステップ 6 [Search] をクリックします。

検索結果がページに表示されます。結果がユーザ指定のポーリング間隔に基づいて更新されます。[IP Address] 列で使用できる IP アドレスのリンクから Unified CM を開始できます。

検索結果には、次の情報も含まれます。

- **App Info** : アプリケーションに関する情報。
- **Configuration** : これは、H.323 ゲートウェイに適用されます。
- **Port/Channel Status** : 設定されているすべてのポートやチャネル、およびその状態を表示します。ポーリング間隔を設定して、この表示を更新することができます。

検索はデータベースに保存されないため、保存しないとログアウト後にこの検索を復元できません。検索を保存するには、[保存 (Save)] アイコンをクリックします。

ユーザが保存した検索を編集することもできます。保存されていない場合でも、ユーザが作成した検索設定を削除できます。編集または削除アイコンを使用して検索を編集または削除できます。ユーザが編集できないフィールドは無効になっています。

SIP トランクの宛先のステータスも表示できます。[デバイス タイプ] ドロップダウン リストから [SIP トランク] を選択し、[条件名] と [ポーリング間隔] を入力して [検索] をクリックします。[Name] 列にマウスを合わせてクイック ビュー アイコンをクリックし、[送信先の詳細] ポップアップ ウィンドウを表示します。

(注) Internet Explorer 10 または 11 の検索条件を保存するには、ブラウザの [Always Refresh from Server] オプションを有効にする必要があります。このオプションを有効にするには、F12 を押します。Internet Explorer のツールバー メニューで、[Cache > Always refresh from server] を選択します。

SNMP クエリ (SNMP Query)

SNMP クエリ機能は、ネットワーク内のデバイスのトラブルシューティングに役立ちます。

次の場合に SNMP クエリを実行します。

- ネットワーク内のデバイスが、Cisco Prime Collaboration Assurance で管理された状態になりません。
- ネットワーク内のデバイスが、およびインベントリ管理の一覧に表示されません。
- SNMP ポーリングが正常に実行されません。

前提条件 - デバイスは、Cisco Prime Collaboration Assurance によってサポートされている必要があります。

サポートされているデバイスの一覧については、「[Cisco Prime Collaboration Assurance でサポートされているデバイス](#)」を参照してください。

SNMP クエリを実行するには、次の手順に従います。

1. 選択 [デバイスインベントリ (Device Inventory)] > [SNMP MIB クエリ ツール (SNMP MIB Query Tool)]。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

移行方法 [インベントリ (Inventory)] > [SNMP MIB クエリ ツール (SNMP MIB Query Tool)]。

2. IP アドレスを入力して OID ドロップダウン リストから OID タイプを選択し、次のいずれかの操作を実行します。

- 特定の OID の戻り値を確認するには、[取得 (GET)] ボタンをクリックします。たとえば、インターフェイス名やインターフェイス ステータスを確認する場合です。

このタスクを実行するには、クレデンシャルが必要です。Cisco Prime Collaboration でデバイス情報が利用できる場合は、詳細が画面に自動入力されます。それ以外の場合は、[クレデンシャルの入力 (Enter the Credentials)] チェックボックスをオンにし、バージョンドロップダウンリストから SNMP バージョンを選択し、表示されるフィールドに詳細を入力します。

- 対象デバイスの MIB に関する詳細情報を取得するには、[ウォーク (WALK)] ボタンをクリックします。

このタスクを実行するには、クレデンシャルが必要です。Cisco Prime Collaboration でデバイス情報が利用できる場合は、詳細が画面に自動入力されます。それ以外の場合は、[クレデンシャルの入力 (Enter the Credentials)] チェックボックスをオンにし、バージョンドロップダウンリストから SNMP バージョンを選択し、表示されるフィールドに詳細を入力します。

ページには、IOD に関する情報が表で表示されます。

トラブルシューティング - 次の場合、SNMP クレデンシャルは自動入力されません。

- 検出が完了していないため、Cisco Prime Collaboration データベースにはまだクレデンシャルが追加されていない可能性があります。
- デバイスが、およびインベントリ管理で Unknown または Inaccessible 状態になっていません。
- デバイスで SNMP クレデンシャルが設定されていません。